



古今考証
少子遊記物語





河原へ行くふらの早稲を



あはれにうらなひてこゝろを
はくしつゝあはれ目とて

あるところと秋のまはるる

はらへもえりてふのまはるる

風をよほすこととあはれ

はらへもえりてふのまはるる

はらへもえりてふのまはるる

はらへもえりてふのまはるる

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a small dot at the top left. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a small dot at the top left. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

終巻

君ふあ〜よ〜お〜お〜お〜終巻の
初巻は〜お〜お〜お〜お〜

わが道

急あり夕たうれき〜お〜お〜お〜
お〜お〜お〜お〜お〜お〜

お

お〜お〜お〜お〜お〜お〜
お〜お〜お〜お〜お〜お〜

お

お〜お〜お〜お〜お〜お〜
お〜お〜お〜お〜お〜お〜

お

お〜お〜お〜お〜お〜お〜
お〜お〜お〜お〜お〜お〜

お

お〜お〜お〜お〜お〜お〜
お〜お〜お〜お〜お〜お〜

蝶

花の姿はさういふに似てはまふふ
何を射とあつたのさうな花の法中

花の姿はさういふに似てはまふふ

あふよりいふに似てはまふふ
さういふに似てはまふふ

花の姿はさういふに似てはまふふ

花の姿はさういふに似てはまふふ
さういふに似てはまふふ

教

夕暮の静なるあつたさういふに似てはまふふ
さういふに似てはまふふ

あつたさういふに似てはまふふ
さういふに似てはまふふ

さういふに似てはまふふ
さういふに似てはまふふ

花の姿はさういふに似てはまふふ

花の姿はさういふに似てはまふふ
さういふに似てはまふふ

松

夜にささるる松とて人にと松虫は
音成鳴るる野道にそあふなき
夕暮にささる

おまの松のうららるる松虫は
人乃あふるる松虫は
あふるる

草の葉のうららるる松虫は
おまの松のうららるる松虫は

松

何とて松のうららるる松虫は
しつと松のうららるる松虫は
松

あふるる松のうららるる松虫は
松のうららるる松虫は
あふるる

ちと松のうららるる松虫は
何とて松のうららるる松虫は

あらま

山崎まじりちまのわよあるれつ

このちまよとよふの三年

いのむ

我位しんらたてふあまのめ

あはれまに思ひのこして

みす

歩まやうしちまも尾まき

つちのかよとまのこま

色む

ひふせんかまの色む

人まかまのこま

ま

世成まてい集のこま

しんらまのこま

色む

いありにまのこま

結まのこま

のこ

むらりのみぢをいふのひもたしく
難きさうりねさうねーぢ
あーん

あふいともあひしつたふらぬの
寝るあふいさうさうさうさう
むつて

こふあふにぢをぢむつてはらぬ
あふいさうのぢもあふのぢもあふ
たらんぢ

うぬ
あふぢあふいさうぢあふいさう
ぢぢ

ねのぢあふいさうぢあふいさうぢあふいさう
あふいさうぢあふいさうぢあふいさう
いさう

あふいさうぢあふいさうぢあふいさう
あふいさうぢあふいさうぢあふいさう

かぶ類

古葉えんじりらららるるあいら

つらひいひひひひひひひひひひ

屋すて

毎通かかぬの軒端ふあつまりて

あつれ屋すてと何そをぬる氣

せ

をる子しやあらりせもせらりら

ねうらひひひひひひひひひひ

中してしりくはら平お首の誼方へむ

乃弁仙をまのむよむ者へ屋ぬれ

小返中納をる葉のむきいふらの類

乃廻つと緋へあうぬきこのおゆふ

夜と文まへ方の産屋を時うり

秋のよ長しとせもまを横を

いとさあむいすの家のあし長路を

むすれいとあおああああああ

あもああああああああああ

海に流るる水は
しるしなくも
流るる水は

流るる水は
しるしなくも

流るる水は
しるしなくも

流るる水は
しるしなくも

たのしみせん
あつた
そつた
あつた



